

## 第5学年1組 国語科学習指導案

平成29年11月30日（木）1校時

1. 単元名 説明のしかたの工夫を見つけ、話し合おう「天気を予想する」  
理由づけを明確にして説明しよう「グラフや表を用いて書こう」

### 2. 単元の目標

- 意見に説得力を持たせるためのグラフや表の有効性に気付き、書いたものを読んで確かめようとする。【国語への関心・意欲・態度】
- 収集した事柄を引用したり図表やグラフを用いたりするなど書き方を工夫して、自分の考えが伝わるように書くことができる。【書く能力】
- 資料を用いた意図やその効果について考えながら読むことができる。【読む能力】
- 意見文の構成要素を理解することができる。【言語についての知識・理解・技能】

### 3. 単元の評価規準

国語への 関心・意欲・態度	書く能力	読む能力	言語についての 知識・理解・技能
・意見に説得力を持たせるには資料の活用が有効であることに気づき、自分の考えをわかりやすく説明しようとしている。	・自分の考えを説明するために必要な材料を見つけて文章を書いている。 ・考え・根拠などを書き分けている。 ・「図1は～」などの表現を用いて、本文との関連を示している。	・筆者が事例、理由や根拠を挙げている事実を読みとっている。 ・筆者の根拠や主張を自分なりに評価し、筆者の主張について意見を表している。	・語と語の関係により、文の意味が捉えやすくなることを理解している。 ・文章の構成や段落相連互の関係について理解している。 ・意見文の構成要素を理解している。

### 4. 基盤

#### ○教材について

第一教材の「天気を予想する」は、児童にとって身近に感じられる天気予報を題材として取り上げている。小さな問いがあって答えがあり、また次の問いが生まれるということをつくり出す構成になっているため、段落相互の関係はつかみやすい。また、図・表・グラフといった資料を用いて説明をし、資料のレイアウトも文章に対応するよう構成されており、筆者の考えもとらえやすい。したがって教材文を読み進めていく中で、文章構成についてとらえたり、資料を用いて説明する効果について考えたりするのに適している。

いえる。また、資料を用いることで、筆者の意見により説得力が増すという点で第二教材と大きくつながっているため、その点を児童にしっかりと読み取らせたい。それぞれの資料の効果として、表は具体的な数値を説明する効果、図や写真は具体的なイメージを持たせる効果、グラフは数値とともに変化を説明する効果がある。筆者の述べたい内容に応じて、それにぴったり合う資料を用いているため、筆者がなぜその資料を用いたのかについても資料の効果とともにしっかりとつかませたい。第二教材の「グラフや表を引用して書く」では、実際に効果的に資料を活用して自分の考えを書く活動が設定されている。第一教材の資料を活用した説明の述べ方のよさを生かして、自分の考えを伝えるためにぴったり合う資料を選び、分かりやすい意見文を書く学習ができると考える。このように複合単元の学習を通して、「書くことの指導事項エ「引用したり、図表やグラフを用いたりして自分の考えが伝わるように書く」力を習得するのに適した教材である」と考える。

#### ○指導について

本単元は、『くらしやすさ』『くらしにくさ』について意見文を書き、他校の友達に読んでもらおう。」を目的として学習を進めていく。意見文を読んでもらう相手に他校の児童（五箇小学校5年生の児童）を選んだ理由は、児童の活動に「緊張感」を持たせ、「交流」させたかったからである。今回、普段接触のない他校の5年生に向けて文章を書くことで、児童が緊張感と意欲を持って活動することが期待される。

第1次では、「今生きている社会はくらしやすいかくらしにくいのか」の立場を児童が決定する。その際、「何がどうなっているから」という理由を十分引き出すようにしていきたい。それを友達同士で、例文と比べながら読み合う中で、意見文の構成要素を確実につかませるとともに、自分たちの文章には資料の引用がないため、説得力がないことに気付かせ、資料を効果的に用いる学習を進める必要感を持てるようにする。

第2次では、資料を引用することの有用性や有効な活用法を学ぶため、説明文「天気を予想する」を読む。読み取りの内容としては、資料を引用することの効果や筆者の意図を中心とする。図やグラフ、表の効果をとらえるために、教材文と、資料を除いた文章だけのものごとを比較する活動を設定する。

第3次では、意見文の作成をする。第1次で確認した意見文の構成要素を再度おさえる。段落構成の他、自分の考え方と根拠が書き分けられていることを確認したり、資料を引用した際は、文章の後に著者名、書名などを書く決まりなど、意見文を書く基本的な事項をつかませたりする。その後、教科書に例示された図やグラフを用いて、情報を読み取る練習をする。ここでのポイントは、「何が読み取れるのか」「どんなことが言えるか」の2点である。これが、その後、自分の意見文に資料を引用する際の大きな材料となる。資料の読み取りの練習を終えた後、自分の意見を支える資料を探す活動を行う。図書館司書と連携し、「朝日ジュニア年鑑」を中心に、ある程度の資料を準備しておく。児童はその中から自分が使う資料「マイ資料」を探し出し、読み取りをし、下書きと推敲を経て意見文を完

成させる。

本時では、「マイ資料」の読み取りと、意見文の「中」の段落の下書きに取り組む。前々時に行った読み取りの練習を生かし、自分の意見に説得力を持たせるために、資料の分析を行い、そこから言えることを文章化する。読み取りの支援として、①資料が表していること②注目ポイント③そこから考えられることの3点について色違いの付箋を用いて情報を整理する活動を行う。それでも読み取りの不十分な児童がいることが予想されることや、多角的な見方が少しでもできるようになってほしいという願いから、ペア学習の形態をとり、児童同士で助言や指摘をし合う時間を設定する。また、より高学年らしい文章にするための「これは使える！表現集」(教科書の例文等から見つけた効果的な表現を綴ったもの)を参考にしながら、相手意識、目的意識を持って活動に取り組めるよう声をかけながら指導にあたる。

本単元における、次の3点の指導において、司書教諭と連携しTTでの授業を行う。

①資料の引用の決まりの学習 ②資料を探し出す学習 ③意見文を推敲する学習  
より専門的な助言を得ることで、児童はより理解を深められることが期待される。

#### ○研究との関わり

本校では、確かな学力を身に付け、生き生きと学ぶ児童の育成～学校図書館活用教育の充実を通して～を主題にして研究を進めている。「課題を追及するために進んで情報を活用する児童」、「調べたことをもとに、自分の思いや考えを自分の言葉でまとめ、豊かに表現する児童」の育成をめざし、「単元の導入の工夫」と「情報の分類・整理・選択」に重点を置いて授業作りに取り組む。

#### ① 単元の導入の工夫

単元のゴールとして、くらしやすさについての意見文を書いて他校の児童と交流する活動を設定している。単元構成を工夫し、単元の最初に、あえて主観だけで文章を書かせることで、このままでは説得力がない文章になってしまうことを児童に気づかせる。客観的なデータを収集し活用することが必要になると児童が自ら感じられるようにすれば、主体的に図書館や図書資料等を活用しようとする意欲が高まることが期待される。

#### ② 情報の分類・整理・選択

本単元では、特に図やグラフなどの情報の分析に力を入れる。選んだ資料が何を示しているのか、その中でも読み手にどこを見てほしいのか焦点化する仕掛けをすることで、より効果的に情報を活用する力が高まると考える。具体的には、図やグラフから読み取れることの列挙、その中で自分の主張を強く支える部分の抽出、そこから言えることの文章化といった活動が挙げられる。また、ペア活動やグループ活動を取り入れ、多面的に情報を見て、さらに質の高い意見文にすることを計画している。

5. 単元計画（本時 10/13）

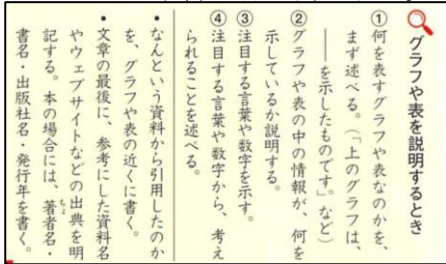
次	時	主な学習活動	評 価				
			関	書	読	言	主な評価規準（評価方法）
1	1	「くらしやすさ」についての意見を書き、友達と読み合う。	○				考えを整理しようとしている。 （ノート、発表）
	2	自分の書いた文章と教科書の例文を読み比べる。 （資料の引用・段落構成・引用の決まり） <b>※司書教諭とのTT</b>			○		資料の引用が意見文に説得力を持たせていることに気づいている。 （ノート）
2	3	「天気を予想する」を読み、初発の感想を書く。	○				天気や天気予報について、興味を持って文章を読んでいる。 （発言、ノート）
	4	筆者の説明の工夫を読み取る。			○		3つの問いと答えを見つけ、それぞれの関連を読み取っている。 （ノート、発表）
	5	①表・写真・図・グラフの引用					表・写真・図・グラフ・数字の使い方について、筆者の意図やその効果に気づいている。（ノート）
	6	②数字の使い方 ③3つの問いと答え			○		
7	語と語のまとまりや、接続の仕方について確認する。				○	語と語のまとまりや、接続の仕方について理解している。（発表）	
3	8	例示された資料の分析の読み取りをする。		○			表やグラフから事実を読み取っている。（ノート）
	9	自分の考えを裏付ける資料を探す。 <b>※司書教諭とのTT</b>			○		自分の主張の助けとなる資料を選び、読み取っている。 （発言、ノート）
	⑩	資料の読み取りをし、「中」の下書きをする。		○			表やグラフから事実を読み取り、自分の考えの支えとして活用している。（ノート）
	11	意見文の「終わり」の部分の下書きをし、全体を推敲する。 <b>※司書教諭とのTT</b>		○			考え・根拠などを書き分けている。 （ノート）
	12	意見文の清書をする。		○			漢字や語句を正しく用いて文章を書いている。（作文用紙）
	13	五箇小学校の友達の文章を読み、交流する。			○		他者の文章を読んで、優れた点を具体的に指摘している。（発言）

## 6. 本時の学習

### (1) ねらい

○資料から事実を読み取り、見てほしい部分の指示やそこから分かることを明示しながら文章を書くことができる。

### (2) 展開

時	主な学習活動	・教師の支援 ☆評価
③	○本時の学習課題を確認する。 マイ資料を引用して意見文の「中」を書こう。 ①マイ資料の読み取り ②文章作成	・単元の流れや本時の課題を児童が自分で把握できるように「学習の進め方」を用いる。
⑤	○前時までの学習内容を振り返り、資料の引用のきまりを確かめる。 ①引用した資料名を資料の近くを書く。 ②文章の最後に出典を明記する。 本の場合、著者名・書名・出版社名・発行年を書く。	・前時までの学習内容を掲示する。 
⑩	○マイ資料の読み取りをする。 ・個人で以下の3点について付箋を用いて整理する。 ①資料が表していること ②注目ポイント ③そこから考えられること ・ペアの友達に紹介する。	・付箋を色分けし、どこに何を書くのかを明確にする。 ・ペアの友達から助言が得られれば改善してよいことを伝える。
⑫	○「中」の文章を書く。 ・付箋を材料にして個人で書く。 ・「これは使える！表現集」を参考にしながら文章を作る。	・教科書の例を示すことで文章作りの支援とする。 ☆資料から読み取った事実と、見てほしい部分やそこから分かることを付箋に書き、「中」の段落を書いている。(付箋、ワークシート)
⑮	○本時の学習を振り返り、次時の活動内容を確認する。 ・全体で「学習の手引き」を確認する。	・代表児童の下書きを全体場で広められるよう、各児童の資料をモニターに映す準備をしておく。

(3) 視点

○付箋を用いた情報の整理活動を行ったことは、児童が説得力のある文章を書く上で有効であったか。

(4) 評価について

十分満足できると判断される児童の具体例	概ね満足できると判断される児童の具体例	支援を必要とする児童の姿と指導の手立て
<p>資料から読み取った事実と、見てほしい部分やそこから分かることを付箋に書き、「これは使える！表現集」から接続語や問いの表現を用いて「中」の段落の文章を書いている。</p>	<p>資料から読み取った事実と、見てほしい部分やそこから分かることを付箋に書き、「中」の段落を書いている。</p>	<p>資料から事実を読み取れない児童への支援 →資料を一緒に確認する。グラフであれば、縦軸や横軸が何を表しているのかを助言する。</p> <p>資料から考えられることが文章化できない児童への支援</p>
<p>右記の内容に加え、 「したがって～」 「であるからして～」 「ところが～」 「また～」 「～なのでしょうか。」 等の表現を用いて文章を作っている。</p>	<p>「ごみの総排出量の推移」のグラフから、下記の内容を読み取り、教科書の例文を参考に文章に表している。</p> <p><b>読み取った事実</b> 1人が1日に出すゴミの量も、総排出量も減ってきている。</p> <p><b>見てほしい部分</b> 2007年から急激に減ってきているところ</p> <p><b>そこから考えられること</b> 人々の環境に対する意識が高まってきていると言える。</p>	<p>→資料から読み取った事実と、自分の本来の主張を結びつける助言をする。</p> <p>付箋は書けたがそれらを文章でつなぐことができない児童への支援 →教科書の例文を示し、そのまま使用できる表現を紹介する。</p>